

アカマツ林成木調査報告(2016)

1 はじめに

アカマツ林成木調査は、アカマツ成木の生育状況やマツ枯れ被害等を把握し、調査結果を今後の整備作業や計画に反映させていくことを目的に、A地区からF地区の全地区の成木を対象として毎年調査を実施しています。

今回は、昨年12月10日(土)に実施した成木調査についてご報告します。

2 調査内容

今回の調査ではA地区からF地区のすべてのアカマツ成木(胸高直径3cm以上)を対象に、各個体の胸高直径の測定、樹勢の判定及び特記事項等の確認を行い、調査票に記録する作業を行いました。

当日は草刈り等の整備作業もあり、参加人数も限られていましたので世話役と助役の2名で調査を行いました。

各個体には、胸高直径の測定位置に個体識別用のナンバーラベルを設置しているため、そのラベル位置に直径尺を巻くだけで胸高直径の計測ができるようにしています。これにより、うんえー会後の半日作業でしたが、時間内にすべての成木の調査を終了することができました。

3 調査結果等

胸高直径の測定と樹勢の判定結果の詳細は次頁の別表のとおりです。

今回、マツ枯れや劣勢木の間引きに伴う伐採により、1年前の前回調査時(H27.12.12実施)から3本が消失しましたが、E・F地区で胸高直径が3cm以上に成長した個体2本が新たに調査対象に加わり、アカマツ林全体で72本の成木を確認しました。

(1) 胸高直径について

1年前の前回調査時から全体平均で約0.6cmの伸びとなっています。A地区とC地区で差がマイナスになっているものがありますが、計測位置のずれ等によるものと考えられます。

特に、日照時間が長く樹勢も比較的良好な個体が多いB地区で生長がよい結果となっています。

また、これまでの調査結果から、松枯れ被害木は、胸高直径が伸びないという傾向がありますが、今回C地区で立ち枯れしていた個体についても同様の結果でした。

(2) 樹勢について

次の表は、各地区別の樹勢区分別の構成割合を

表1 樹勢区分別構成割合 (本)

	0 (良好)	1 (やや良)	2 (不良)	3 (劣悪)	4 (枯死)	計
A地区	10 (37%)	7 (26%)	9 (33%)	1 (4%)	0 (0%)	27
B地区	1 (14%)	5 (71%)	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)	7
C地区	4 (44%)	3 (33%)	1 (11%)	0 (0%)	1 (11%)	9
D地区	0 (0%)	2 (40%)	2 (40%)	1 (20%)	0 (0%)	5
E地区	0 (0%)	5 (56%)	2 (22%)	2 (22%)	0 (0%)	9
F地区	0 (0%)	8 (53%)	4 (27%)	3 (20%)	0 (0%)	15
合計	15	30	19	7	1	72

示しています。

D・E・F地区では樹勢が不良・劣悪な個体が多く、これら劣勢木に代わる次世代の個体の育成が課題といえます。

一方、A・B・C地区は大きく成長し樹勢も良好な個体も多い状況ですが、近年マツ枯れの被害を受けるものもあり、こちらでも現存の大径木の後継となる個体を育成していく必要があるといえます。

こうした状況ではありあすが、除伐や下草刈り、落ち葉かきなどの整備作業を進めてきた結果、現在、アカマツ林は本来の明るい林になりつつあり、幼木も徐々にその姿が目立つようになってきています。移植を試みた個体も今のところ問題なく成長しているようです。

今後は、これら幼木の動向も重要となることから、成木調査とは別に各地区の幼木のサンプリング調査なども新たに実施していく予定です。

これからも継続して調査を行いデータを蓄積し、整備作業や計画に活用していきたいと思えます。

(アカマツ林調査世話役 中嶋)



アカマツ林成木調査結果一覧表

調査区域	No	個体 (タグ) 番号	胸高直径(cm)※ ¹			樹勢 ※ ²
			今回 (H28.12.10)	前回 (H27.12.12)	差	
A 地 区	1	505	23.8	22.7	1.1	1
	2	506	44.4	44.4	0.0	0
	3	507	25.3	24.9	0.4	0
	4	508	38.1	37.6	0.5	0
	5	509	43.7	44.0	-0.3	0
	6	510	61.8	61.6	0.2	0
	7	511	54.0	53.2	0.8	0
	8	512	49.2	49.7	-0.5	2
	9	513	52.4	52.0	0.4	2
	10	514	63.0	61.3	1.7	0
	11	515	41.5	41.1	0.4	0
	12	516	53.5	52.7	0.8	0
	13	517	54.6	53.5	1.1	1
	14	518	42.4	42.0	0.4	2
	15	519	48.9	47.4	1.5	1
	16	520	11.1	11.0	0.1	3
	17	521	44.0	43.1	0.9	1
	18	522	15.5	15.3	0.2	2
	19	523	18.9	17.8	1.1	2
	20	524	39.5	38.5	1.0	1
	21	525	16.2	14.9	1.3	2
	22	526	47.2	47.3	-0.1	0
	23	527	41.1	40.2	0.9	1
	24	528	32.3	31.8	0.5	2
	25	529	48.5	47.8	0.7	2
	26	530	39.9	38.8	1.1	1
	27	531	20.2	19.7	0.5	2
	平均	39.7	39.0	0.6		
B 地 区	1	497	59.8	59.0	0.8	1
	2	498	53.6	53.0	0.6	1
	3	499	55.5	55.1	0.4	2
	4	500	39.2	38.4	0.8	1
	5	501	51.6	50.5	1.1	0
	6	502	伐採	46.2		
	7	503	39.2	38.6	0.6	1
	8	504	40.8	39.3	1.5	1
	平均	48.5	47.5	0.8		
C 地 区	1	488	45.8	44.7	1.1	1
	2	489	48.1	47.7	0.4	0
	3	490	34.0	33.4	0.6	0
	4	491	44.0	43.3	0.7	0
	5	492	46.7	45.7	1.0	0
	6	493	46.5	46.0	0.5	1
	7	494	36.9	36.4	0.5	1
	8	495	49.6	50.3	-0.7	4
	9	496	32.0	31.8	0.2	2
		平均	42.6	42.1	0.5	

調査区域	No	個体 (タグ) 番号	胸高直径(cm)※ ¹			樹勢 ※ ²
			今回 (H28.12.10)	前回 (H27.12.12)	差	
D 地 区	1	481	35.4	34.8	0.6	2
	2	482	24.4	23.8	0.6	2
	3	483	42.6	42.0	0.6	1
	4	484	21.0	20.7	0.3	3
	5	487	45.9	45.3	0.6	1
		平均	33.9	33.3	0.5	
E 地 区	1	474	48.7	47.9	0.8	1
	2	475	26.4	26.1	0.3	2
	3	476	22.7	21.9	0.8	1
	4	477	12.0	11.9	0.1	3
	5	478	6.7	6.7	0.0	3
	6	479	17.2	16.9	0.3	2
	7	480	32.9	32.5	0.4	1
	8	449	7.1	6.8	0.3	1
	9		3.7			1
		平均	19.7	21.3	0.4	
F 地 区	1	450	6.4	4.5	1.9	1
	2	452	伐採	11.7		
	3	453	27.5	26.8	0.7	1
	4	454	17.8	17.4	0.4	2
	5	455	39.4	38.8	0.6	1
	6	456	14.7	14.5	0.2	2
	7	457	52.6	52.0	0.6	1
	8	458	25.8	25.4	0.4	3
	9	459	30.4	30.2	0.2	1
	10	460	5.8	5.0	0.8	1
	11	461	5.7	4.4	1.3	1
	12	469	33.4	33.0	0.4	2
	13	470	18.7	18.2	0.5	2
	14	471	38.9	38.7	0.2	3
	15	472	13.6	13.0	0.6	3
	16	473	伐採	21.8		
	17	468	3.0			1
	平均	22.2	22.2	0.6		

注：E地区No9及びF地区No.17は今回から追加（胸高直径3cm以上となった幼木）

※¹…胸高直径は小数点以下第1位まで計測

※²…樹勢の評価基準は環境省酸性雨モニタリング（土壌・植生）
手引書の樹木衰退度測定における評価基準を準用

区分	樹勢の評価基準
0	旺盛な生育状態を示し、被害が全く見られない
1	いくぶん被害の影響を受けているが、あまり目立たない
2	明らかに異常が認められる
3	生育状態が劣悪で回復の見込みがない
4	枯死